

# 水に浮く黄砂！？

今年のゴールデンウィーク明け，身体も頭も少々休みボケしているところへ一本の電話が・・・

「川に大量の黄砂が浮いています！！」

確かに黄砂の季節，早速送られた川の写真をしてみると・・・

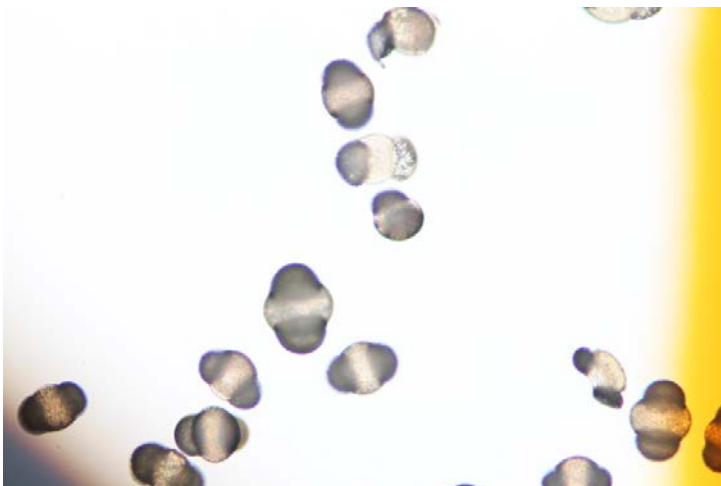


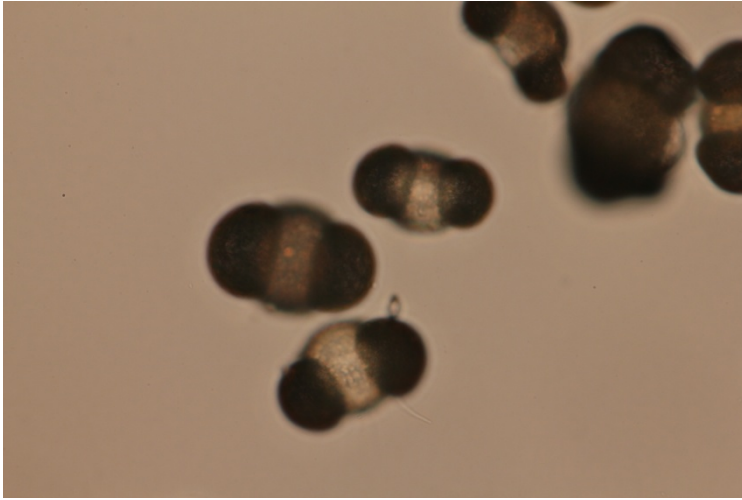
「あれ？本当に表面に浮いてる？！」

ちょっと考えると黄砂は「砂」なので，水に浮くわけがない。

それにいくらなんでも黄色すぎる（^^）；

そこで，顕微鏡で調べてみると・・・





同じ形の物質がギッシリ

実はこれ松の花粉なのです。

「えっ？でも川の近くには松の木ありませんでしたよ？」

確かに川の近くには松の木は無かったようなのですが、松の木は「風媒花（ふうばいか）」といわれ、虫の代わりに「風」が受粉の手助けをする植物なのです。

写真を見ると、3つのボール状の物体がくっ付いているように見えますが、花粉は真ん中の1つで両横は空気袋（気嚢：きのう）になっていて、花粉を風に乗せて遠くに飛ばす構造になっています。

今回の事例は、海岸など遠く離れたところにある松から一斉に花粉が飛び出し、それが風に飛ばされて拡がり、拡がった大量の花粉が連休最後の雨で川に集まり、さらに花粉が水に浮く性質であったため風に吹き寄せられて黄色の縞模様を作り「黄砂」に間違われてしまったようです。